



こども消費生活サポーター活動報告 第1回生産者訪問

2025. 8. 7(木) 有限会社 人と農・自然をつなぐ会

『こども消費生活サポーターは、
「つくり手」(生産者)と「つかい手」(消費者)をつなぎます』

8月7日(木)、有限会社人と農・自然をつなぐ会(本郷1039)の茶工場を訪問し、代表取締役の杵塚一起さんにお話を伺いました。同社では、完全無農薬の有機栽培にこだわり、自然豊かな瀬戸谷地区でお茶を生産されています。今年3月に建て替えられた本郷の工場には、大型の機械が数えきれないほど並び、一番茶の季節にはそれらをフル稼働させて加工を行っています。お茶の味を決める重要な工程の一つである「揉む工程」では、複数の機械を使い、揉む回数や強さ、乾燥具合を細かく調整しながら丁寧に仕上げているというお話から杵塚さんが大切に育てたおいしい茶葉を、最高の状態で消費者に届けたいという強い思いが伝わってきました。

また、栽培工程については「薬を使って害虫を駆除すると益虫まで殺してしまい、自然界のバランスが崩れてしまう」とのこと。農薬や化学肥料を使わない栽培は飲む人の健康だけでなく、生態系を守ることもつながります。また、お茶を学びたい人や日本のお茶文化に興味を持つ外国人観光客などを積極的に受け入れ、お茶や地域の魅力を伝えています。農作業を共にすることで、翌年にはその友人が訪れることもあるそうです。まさに、人と人が自然を通じてつながるお茶づくりでした。



○サポーターが感じた「つくり手」(杵塚さん)の思い

- ・有機栽培をすることで消費者(自分たち)の健康や自然界のバランスを守りたいという思い
- ・心を込めて作ったお茶を、飲んだ人に「おいしい」と言ってもらいたい

○サポーターが「つくり手」に伝えたいこと

- ・1人で大きな機械たちを管理していてすごいと思ったし、お茶への愛情が伝わった。
- ・おいしくて安全なお茶を届けるために、苦勞をして作ってくれている杵塚さんに感謝したい。
- ・無農薬茶を作るのは大変なことなのにそれを何十年も続けていてすごいと思った。

☆アクション宣言☆

～消費者としてのこれからの行動～

- ・生産者の苦勞に感謝して、お茶をしっかり味わって飲みたい
- ・味や香り、品質を感じながら残さず飲みたい
- ・生産者の気持ちを考えて飲む
- ・今度お茶を買うときはお茶の種類に注目する

